

2020年3月6日

研究会のあり方・研修会のあり方

研修・研究会検討担当

大川明宏

大地協としての活動方針

会員が地域福祉のあり方を研究し実践するとある。

具体的には、各研究会を設置し活動する。現在活動中の研究会は4つ。

- ・地域の子育て支援研究会
- ・地域の子ども研究会
- ・地域の障がい児・者研究会
- ・セツルメント研究会

※地域のお年寄り研究会休止中

大地協の事業活動は定款によると

- ・地域福祉や社会教育に関する研修会や調査研究事業
- ・まちづくりや人と人とのつながりづくり
- ・子どもたちや地域住民のためのスポーツ、文化的事業
- ・自然体験や環境問題を考える事業
- ・子どもの健全育成を図る事業
- ・その他

大地協はこれらの事業を実施している。研究会はこの事業を実施するためのチームであるともいえる。研究会のメンバーに仕事が偏りがちとのことであるが、それは構造上そうなっているといえる。事業を担っているため偏ってくる。

課題は偏りの是正にすることなのか

研究の内容、方法を改善することなのか

研修の内容、方法改善することなのか

偏りを是正については

事業を運営するための作業分担については、研究会とはべつのチームとして、実行委員会制・タスクフォース制などをとることも検討することも必要となる。研究会や研修会のあり方とは異なる問題といえる。

㍻

研究会の改善

研究会は興味関心がある分野に対して自由意志で参加する会員と施設業務の役割として参加している場合がある。

この違いを包括するかしないか、均質化するかどうかということも検討課題となる。

そのためになぜ 研究会はするのかという点を明確にしていくことが前提となる

活動目標に対してどういう成果が得られるかを明確にして数値目標化した事業計画をつくる

同時に作業効率をあげる工夫

そもそも、この成果とは何かということが重要で

なぜ研究会をするのかというところを明確にしておかないと何をしているかわからないということになる

加盟施設の職員が地域福祉のあり方を研究し実践するために
集う会ともいえる

大地協はそのプラットフォーム（舞台）を提供する

予算を提供 活動場所を提供

加盟施設の設備を使用させていただく ということとなる

研究会についての評価

活動回数

活動参加者数

活動成果達成度

研修会を実施するのはなぜか？

大地協 活動の根幹 人と人とのつながりを創る

施設 職員のスキルアップ

個人 活動の場

研修会に参加するのはなぜか

大地協	施設	個人
大地協	積極的な参加	活動への参画
施設	活動への参画	能力の向上
個人	活動の場	サポート

職員のスキルアップ

研修会を実施すれば、スキルが上がるのか？個人差はある

やるとやらないではやるほうが良いだろう、ではどのようなものをどのくらいやれば効果があるのか？わからなければできるだけやろうということになる。ペースもわからない。できるだけやろうあるいは、できる範囲でやろうとなる。結果過剰になったり、不足になったりする。

研修会の種類を2種にして

業務時間内か外かというのは、所属法人がどう処理するかということとなる。

というのは、雇用条件や勤務時間は業務内容や勤務施設によって異なるからである。

となると

10:00～12:00 までの研修

15:00～17:00 までの研修

17:00～19:00

19:00～21:00

月～金の平日開催

土曜日実施 日曜日実施 祝日実施

業務時間内実施のオープン研修

業務時間外実施のオープン研修

時間外の夜間や土曜・日曜に実施する研修

施設の開所時間中で勤務として参加となると、その間の代替職員を手当しなければならぬ→参加者数は減る。

会員施設の従業員だけではなく、

特定非営利活動促進法の問題からいうと広く募ることも必要もある

参加者数が多いければよい効果がでるものもある

参加者数よりも参加意欲によって効果がでるものもある

なんのための研修かが重要になる

研修会の評価

活動回数

活動参加者数

活動成果達成度

最後に 事業活動を研究するという方向性も提案したい

実践の対人援助技術というのではなく

事業として、必要なものは今、街にないのか？

大阪市の各施設の周囲を見渡せば課題は多い、大地協として単体施設では困難なことに取
り組むためにも

福祉施設の集まりとしての意義があるように思う。

例)

こども食堂

日本語を母国語としないこども 若者

引きこもりと孤立など

福祉施設を担う人材の減少

サービス業としての福祉との関係

企業の地域貢献との関係